

# 平成 25 年度 実績

社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団

兵庫県立こども発達支援センター

## 平成 25 年度 実績

### 1 診療実績

#### (1) 事前協議

受診希望者について市町窓口事前協議を実施し利用申込書を受け取る。(詳細は「利用の手引き」参照)

<月別事前協議件数>

	25年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	26年 1月	2月	3月	計
件数	7	16	22	30	22	39	30	23	31	22	25	24	290

※受診の有無に関わらず全件を掲載

<事前協議から初診までの日数>

日数	件数
0	0
～10日まで	24
11～20日	64
21～30日	86
31～40日	45
41～50日	22
51～60日	5
61～70日	5
71～80日	1
81～90日	2
91日～	4
計	258

#### (2) 利用患者数

	25年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	26年 1月	2月	3月	計
初診数	8	6	15	24	31	22	37	26	21	28	23	17	258
再診数	95	87	90	117	142	168	189	204	198	207	206	196	1,899
利用延数	103	93	105	141	173	190	226	230	219	235	229	213	2,157

### (3) 初診患者内訳

初診患者に関する属性は下記の通りである。

#### <初診時年齢>

年齢	患者数
0歳	0
1歳	4
2歳	27
3歳	32
4歳	21
5歳	41
6歳	32
7歳	26
8歳	21
9歳	18
10歳	10
11歳	15
12歳	6
13歳	3
14歳	2
15歳以上	0
計	258

#### <性別>

性別	患者数
男性	191
女性	67
計	258

#### <受診の目的>

受診の目的	患者数
診断を受けたい	104
療育を受けたい	31
診断と療育を受けたい	84
気になる症状がある	11
セカンドオピニオン	9
その他	19
計	258

#### <紹介市町>

市町	患者数
神戸市	12
姫路市	2
尼崎市	2
明石市	95
西宮市	1
洲本市	0
芦屋市	2
相生市	1
豊岡市	1
加古川市	47
たつの市	2
三木市	15
高砂市	10
小野市	26
篠山市	1
丹波市	2
南あわじ市	1
朝来市	1
淡路市	2
加東市	2
猪名川町	0
多可町	1
稲美町	20
播磨町	9
福崎町	2
太子町	1
計	258

<診断>

発達障害に関連する主たる診断名 (ICD-10 精神および行動の障害による分類)

疾患名	患者数	
PDD	71	27.5%
PDD+ADHD	8	3.1%
PDD+LD	1	0.4%
PDD+MR	42	16.3%
PDD+その他	10	3.9%
ADHD	15	5.8%
ADHD+LD	1	0.4%
ADHD+MR	3	1.2%
ADHD+その他	9	3.5%
LD	4	1.6%
MR	53	20.5%
MR+その他	1	0.4%
その他	40	15.5%
計	258	100.1%

診断名が複数ある患者 66名 25.6%

知的障害の有無 (境界知能含む)

	患者数	%
あり	126	48.8%
なし	132	51.2%
計	258	100.0%

※PDD：広汎性発達障害 (F84)

ADHD：注意欠陥多動性障害 (F90)

LD：学習能力の特異的発達障害 (F81)

MR：知的障害 (F70-74)

発達障害に関連する従たる診断名

「その他」の内訳 (重複あり)

	患者数
不安障害	1
適応障害	1
言語発達遅滞	2
情緒障害	3
緘黙	1
反応性愛着障害	4
チック	2
夜尿	1
吃音	2
不登校	12
構音障害	2
境界知能	27
定型発達	5
診断保留	2
育児不安	1
発達性協調運動障害	1
高機能	1

基礎疾患等 (重複あり)

	患者数
脳性麻痺	2
先天性房室ブロック	1
脳出血後	1
前腕癒着	1
てんかん	3
超低出生体重児	2
極低出生体重児	0
低出生体重児	20
ダウン症候群	1
染色体異常	1
多発奇形	1
ダウン症候群	3

#### (4) 保育実績

初めてセンターを訪れたこどもにまず保育士が出迎え、診察に同席し、こどもと個別で遊びながらこどもの特性を確認するために行動観察を行う。また、個別療育や集団コミュニケーション療法（別掲）では、各療法士と協働または保育単独で、こどもに合わせた遊びを工夫し発達を促す。

##### <診療>

	25年										26年			計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
初診陪席	6	6	13	24	30	21	36	23	20	28	23	17	247	
再診陪席	21	24	18	16	21	17	13	34	41	29	31	41	306	
計	27	30	31	40	51	38	49	57	61	57	54	58	553	

##### <療育>

	25年										26年			計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
作業+保育	8	8	7	6	6	6	7	5	6	4	6	7	76	
言語+保育	12	11	15	11	13	10	9	9	10	9	6	9	124	
保育のみ	2	4	4	4	4	5	2	3		2			30	
計	22	23	26	21	23	21	18	17	16	15	12	16	230	

#### (5) 心理実績

臨床心理士が心理検査を行い、こどもの発達の段階を客観的に確認し、支援の参考にする。面談では、具体的な対処法についてや、こどもの特性に対する理解を深めるために、本人や保護者と話し合う。また、必要に応じて、地域の園や学校と連携し、情報を共有してこどもへのバックアップを行う。

##### <心理検査数>

	25年										26年			計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
心理検査計	5	4	5	11	15	13	21	10	19	19	18	15	155	
検査説明	2		1			5	1	2	2	2	1	4	20	

初診患者の6割が発達検査を他機関で過去1年以内に実施済みであり、その場合は、他機関で実施した検査を参考に当センター初診・再診時に陪席して行動観察を行い、評価を実施する。

<心理検査内訳>

		25年										26年			計
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
発達	対面式	K式	1	1	4	6	8	7	8	5	12	10	7	7	76
		WISC	3	3	1	5	5	5	13	5	4	7	8	4	63
		その他	1												1
	質問紙	津守											1		1
		その他						1			2	1			4
人格						2					1	2	3	8	
その他										1			1	2	

<再検査>

		25年										26年			計
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
K式						1		2		3	1		1	8	
WISC					1	1								2	
心理検査計		5	4	5	11	15	13	21	10	19	19	18	15	155	

診療開始から1年が経過した平成25年度から、再検査を必要とする患者には半年～1年程度の期間を開けて再度、心理検査を実施した。

<心理検査以外>

		25年										26年			延人数	実人数
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
診察陪席		53	44	48	61	74	65	53	69	45	48	42	38	640	275	
こども支援	おしゃべり	2		1	3			3	5	3	5	3	3	28	8	
	他	3	1	1		3	3	3	1	1	2	1	5	24	19	
保護者支援	面接	1	4	2	1	7	5	5	12	3	5	7	5	57	22	
	電話	13	11	11	12	34	39	23	35	33	28	15	24	278	154	
地域連携	電話	15	18	12	8	24	27	21	37	16	23	14	25	240	100	
	会議		1		1				3	1	1			7	4	

(6) 療育実績 (言語聴覚療法・作業療法)

言語聴覚士 (以下 ST) 、作業療法士 (以下 OT) は、年齢や障害の程度、ニーズなどに対応した個別のリハビリテーションプログラムに基づいて、療育を提供している。治療時間と頻度は、対象者の障害状況や年齢、家庭の状況などを配慮して設定される。こどもの持つ機能や能力を伸ばすための直接的な関わりに加え、保護者に対しては、こどもの特性の理解を深めたり日常生活での具体的な対応を助言している。

### ①言語聴覚療法

初回評価では、国リハ式＜S-S法＞言語発達遅滞検査、質問-応答関係検査、学齢版言語・コミュニケーション発達スケール（LCSA）などの言語検査を実施し、こどもの言語能力とコミュニケーション力の評価を行っている。読み書きの苦手な児童には、小学生の読み書きスクリーニング検査を実施することもある。検査に乗りにくい乳幼児や検査の対象年齢を超えている児童には、あそびや会話を通して行動観察を行い、コミュニケーションスキルを評価している。

個別療育では、個々の課題に合わせたプログラムにより療育を実施している。主に、絵カードを用いた言語理解と表出を促す課題や、他者との関係を保ちながらコミュニケーション力を育むプレイセラピーを行っている。センターでの療育場面だけでなく、家庭や園でも取り組める課題や関わりの助言を積極的に行っている。

	25年									26年			計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
初回評価件数	10	5	5	17	22	25	25	24	23	21	19	17	213
療育件数	27	30	29	31	35	38	48	63	55	66	58	54	534
合計	37	35	34	48	57	63	73	87	78	87	77	71	747

### ②作業療法

初回評価では、遠城寺式・乳幼児分析的発達検査、日本感覚インベントリー（JSI-R）、日本版ミラー幼児発達スクリーニング検査（JMAP）、機能的自立度評価表（WeeFIM）などを用いて、こどもの運動、感覚、生活動作を評価する。

運動は、歩く・座るなどの姿勢と運動、手の使い方、スキップや縄跳びなどの協調運動、運動企画、ボディーイメージについて、感覚は、感覚の処理能力と知覚・認知能力について、生活スキルは、着替えや排せつなどの生活動作を確認しながら、問題がある場合はその原因を明確にし、対応を検討する。

療育では、評価をもとに目標とプログラムを立案し、こどもへのセラピーだけでなく、生活環境や活動への介入を行う。

	25年									26年			計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
初回評価件数	9	5	5	17	22	25	25	23	23	21	19	17	211
療育件数	28	29	31	36	34	38	46	50	56	53	61	58	520
合計	37	34	36	53	56	63	71	73	79	74	80	75	731

## 2 事業実績

### (1) 出張発達健康相談

センターへの来所が困難で、医師による発達障害の診断・療育をうける機会が少ない地域に、センターの職員が出向き、児童の発達にかかる健康相談を実施する。

- ①対象者：乳幼児から概ね 15 歳までの児童で、発達障害の疑いがある者、又は発達障害と診断された者で、発達、情緒・行動面等の問題において課題を抱えている者
- ②対象地域：県内全域
- ③事業内容：相談及びカウンセリングの実施
- ④派遣職種：医師、臨床心理士（以下 心理士）、保育士等
- ⑤実施方法：市町からの要望を集約し、市町と協議のうえ年間出張計画を策定し、実施。（費用は無料）

実施日	市町名	相談者数	派遣職種
25 年 5 月 17 日	淡路市	2 名	医師、心理士、保育士、保健師
5 月 29 日	丹波市	3 名	医師、心理士、保育士、保健師、OT
6 月 5 日	小野市	2 名	医師、心理士、保育士、保健師
6 月 14 日	加東市	2 名	医師、心理士、保育士
7 月 5 日	たつの市	4 名	医師、心理士、保育士、保健師、OT
8 月 23 日	神河町	3 名	医師、心理士、保育士、保健師
9 月 6 日	南あわじ市	1 名	医師、心理士、保育士、保健師
9 月 27 日	朝来市	2 名	医師、心理士、保育士、保健師
10 月 8 日	南あわじ市	1 名	医師、心理士、保育士
12 月 4 日	丹波市	3 名	医師、心理士、保育士
12 月 13 日	小野市	3 名	医師、心理士、保育士
26 年 1 月 8 日	加東市	4 名	医師、心理士、保育士
2 月 19 日	たつの市	4 名	医師、心理士、保育士
8 市町（13 回）		34 名	

### (2) 派遣発達支援（療育体制づくりの支援）

市町の要請に基づき、市町の療育体制を新しく整備する場合や現在の体制をより充実させる場合に、その計画や内容に対する助言等を行うため、センター職員を各市町に派遣し、療育体制づくりを支援する。

- ①対象地域：県内全域
- ②事業内容：市町の療育体制づくりへの支援、核となる支援機関への支援、派遣支援後の定期的なフォローアップ

③派遣職種：臨床心理士、作業療法士、言語聴覚士、保育士等

④実施方法：派遣を希望する市町から協議を受け、契約を締結のうえ派遣。

実施日	市町名	派遣職種
25年10月 1日	芦屋市	作業療法士
26年 1月 7日	芦屋市	作業療法士

### (3) 研修・情報提供等

こどもが成長発達する過程に携わる保健師や保育士、支援過程で関わる専門職の心理士、言語聴覚士等、支援者のスキルアップのため、センターの職員や外部専門家の特色を活かした研修を企画実施し、支援者のスキル向上を目指す。

①内 容：講義、実地研修

②対象者：保健師、保育士、支援員、心理士、ST、OT 等

③講 師：こども発達支援センター職員、その他必要に応じ外部講師

④経 費：受講者負担（こども発達支援センターの研修受講料等徴収要領による）

#### <保育士研修>

実施日	テーマ・内容	参加者	講師	場所
25年 5月 21日	[講義] 発達障害のあるこどもの理解と対応	30名	保育士、心理士、ST、OT	センター
6月 11日	[実地研修] 療育場面見学 ふりかえり	4名	保育士、心理士、OT	
6月 26日		4名	保育士、心理士、ST	
7月 9日		4名	保育士、心理士、ST	
7月 24日		3名	保育士、ST	
8月 13日		4名	保育士、OT	
8月 28日		4名	心理士、ST	
9月 10日		2名	保育士、OT	
9月 25日		2名	保育士、ST	
10月 8日		5名	心理士、ST	
11月 13日		[講義] 発達障害のあるこどもが幼児期に身につけたいこと	30名	
12月 18日	[実地研修] 療育場面見学 ふりかえり	4名	保育士、OT	
26年 1月 17日		3名	保育士、ST	
1月 22日		4名	心理士、OT	
2月 28日		4名	心理士、ST	
3月 5日		3名	保育士、OT	
3月 12日		4名	心理士、ST	

<専門職研修>

実施日	テーマ・内容	参加者	講師	場所
25年 6月19日	就学前後のこどもへの支援	30名	ST、OT	センター
8月9日	就学前後のこどもへの支援	30名	ST、OT	センター
9月18日	あそびからはぐくむ コミュニケーション	28名	ST、保育士	センター
10月30日	発達障害の不思議な世界 ～共感的理解に基づく支援～	106名	OT、るぼろ 太田篤志氏	明石市生涯学 習センター
26年 2月5日	検査や評価から見えるこどもの姿 ～結果を支援に活かすために～	32名	ST、心理士	センター
2月21日	検査や評価から見えるこどもの姿 ～結果を支援に活かすために～	21名	ST、心理士	センター

<発達障害者サポーター養成講座（児童期）>

実施日	テーマ・内容	参加者	講師	場所
25年 10月18日	療育場面見学・ふりかえり	5名	ST、心理士	センター
10月23日		8名	OT、心理士	センター

<教育連携>

実施日	テーマ・内容	講師	研修会名
25年 12月10日	発達障害について	医師	平成25年度県立特別支援学 校初任者研修校外研修

<講師派遣その他>

年月日	テーマ・内容	講師	主催
25年 9月12日	5歳児発達相談事業の意義	医師	平成25年度第1回5歳児発 達相談診察研修会
11月30日	発達に課題を抱えるこどもへの支援 ～こども発達支援センターの取り組み～	心理士	清水が丘学園児童心理臨床 セミナー

<広報活動等>

- ・「特集 Pulse 発達障害を理解し社会全体で支えよう」 Pulse vol.21 p.7～9 一般社団法人  
兵庫県医師会
- ・「発達障害のあるこどもたちの就学にむけて」理解と援助のいる子どものための就学ハンド  
ブック（2013・明石版 p.15～16 あかし発達支援連絡会）
- ・26年3月8日 サンテレビ「子育て情報ランド」

その他情報提供としてセンターリーフレットの作成、インターネットホームページ (<http://hwc.or.jp/kodomohattatsu/>) の更新等により、発達障害について情報を発信するとともに、相談窓口の紹介を行う。

#### (4) 市町連携体制構築事業

実施日	テーマ・内容	場所
25年 4月23日	<ul style="list-style-type: none"> <li>兵庫県立こども発達支援センターに係る支援の流れについて</li> <li>ひょうご発達障害者支援センターに係る相談支援の流れについて</li> <li>県立光風病院 児童思春期センターの新設</li> </ul>	兵庫県中央労働センター
26年 3月26日	<ul style="list-style-type: none"> <li>兵庫県立こども発達支援センターの事業について</li> <li>「兵庫県立こども発達支援センター利用の手引き」の配布</li> <li>ひょうご発達障害者支援センターの報告</li> </ul>	兵庫県中央労働センター

#### (5) その他

##### ①実習生の受入

学校名	実習内容	人数	時期	実習時間
兵庫医療大学	OT 基礎臨床実習	5名	平成26年2月	4日間

##### ②見学研修の受入

行政機関関係	17名	教育関係	3名
病院関係	2名	発達支援関係	5名
		計	27名

### 3 業績 (学会・研究等)

#### (1) 原著

- ・Noritaka Yokoo, Michiko Nonaka, et al. A case of Toriello-Carey Syndrome with severe congenital tracheal stenosis. AJMG Part A 161(9): 2291-3, 2013

平成 25 年度 市町・圏域別センター利用状況（1）

圏域	市町	初診患者	%	圏域別	%
神戸	神戸市	12	2.9%	12	4.7%
東播磨	明石市	95	22.7%	181	70.2%
	加古川市	47	11.2%		
	高砂市	10	2.4%		
	稲美町	20	4.8%		
	播磨町	9	2.1%		
北播磨	西脇市			44	17.1%
	三木市	15	3.6%		
	小野市	26	6.2%		
	加西市				
	加東市	2	0.5%		
	多可町	1	0.2%		
中播磨	姫路市	2	0.5%	4	1.6%
	神河町				
	市川町				
	福崎町	2	0.5%		
西播磨	相生市	1	0.2%	4	1.6%
	たつの市	2	0.5%		
	赤穂市				
	宍粟市				
	太子町	1	0.2%		
	上郡町				
	佐用町				
淡路	洲本市		0.0%	3	1.2%
	南あわじ市	1	0.2%		
	淡路市	2	0.5%		
阪神北	伊丹市			0	0.0%
	宝塚市				
	川西市				
	三田市				
	猪名川町				
阪神南	尼崎市	2	0.5%	5	1.9%
	西宮市	1	0.2%		
	芦屋市	2	0.5%		
丹波	篠山市	1	0.2%	3	1.2%
	丹波市	2	0.5%		
但馬	豊岡市	1	0.2%	2	0.8%
	養父市				
	朝来市	1	0.2%		
	香美町				
	新温泉町				
		258	(100%)	258	(100%)

平成 25 年度 市町・圏域別センター利用状況（2）

圏域	市町	診療	研修	出張発達	派遣発達
神戸	神戸市	○	○		
東播磨	明石市	○	○		
	加古川市	○	○		
	高砂市	○	○		
	稲美町	○	○		
	播磨町	○	○		
北播磨	西脇市		○		
	三木市	○	○		
	小野市	○	○	○	
	加西市		○		
	加東市	○	○	○	
	多可町	○	○		
中播磨	姫路市	○	○		
	神河町			○	
	市川町		○		
	福崎町	○	○		
西播磨	相生市	○	○		
	たつの市	○	○	○	
	赤穂市		○		
	宍粟市		○		
	太子町	○	○		
	上郡町		○		
	佐用町				
淡路	洲本市		○		
	南あわじ市	○	○	○	
	淡路市	○		○	
阪神北	伊丹市		○		
	宝塚市		○		
	川西市		○		
	三田市		○		
	猪名川町				
阪神南	尼崎市	○	○		
	西宮市	○	○		
	芦屋市	○	○		○
丹波	篠山市	○	○		
	丹波市	○	○	○	
但馬	豊岡市	○	○		
	養父市		○		
	朝来市	○	○	○	
	香美町		○		
	新温泉町				
		24 市町	36 市町	8 市町	1 市町